

BACH スクリーンコンサート

2021. 9月

9月のテーマ バロック音楽

バロックの言葉の由来はポルトガル語の「barocco」と言われます。有名なヴェルサイユ宮殿を中心に、けんらんたるバロック建築としてフランス文化が繰り広げられた時代で、1600年から1750年までの約150年間をバロック音楽の時代とよびます。オルガンやチェンバロなどの鍵盤楽器のための音楽や、弦楽器、ことにヴァイオリンのための音楽が盛んに作られていました。



1、ヴィヴァルディ 四季

ヴィヴァルディの最も有名な作品である《四季》は、1723年に作曲された4つのヴァイオリン協奏曲のセットで、バロック音楽の中で世界的に最も人気があり季節の移り変わり（春夏秋冬）を標題的に表現し、技術的にも革新的であり、新境地を開拓した曲です

協奏曲第1番「春」

第1楽章： 春がやってきた、小鳥は喜びさえずりながら祝っている。小川のせせらぎ、風が優しく撫でる。春を告げる雷が轟音を立て黒い雲が空を覆う、そして嵐は去り小鳥は素晴らしい声で歌う。

第2楽章： 牧草地に花は咲き乱れ、空に伸びた枝の茂った葉はガサガサ音を立てる。羊飼いは眠り、忠実な猟犬はそばにいる。

第3楽章： 陽気なバグパイプにニンフと羊飼いが明るい春の空の下で踊る。

協奏曲第2番「夏」

第1楽章： かんかんと照りつける太陽の絶え間ない暑さで人と羊の群れはぐったりしている。松の木も燃えそうに熱い。カッコウの声が聞こえる。そしてキジバトのさえずりが聞こえる。北風がそよ風を突然脇へ追い払う。やって来る嵐が怖くておののく。

第2楽章： 稲妻と雷鳴の轟きで眠るところではない、ブヨやハエが周りにすさまじくブンブン音を立てる。

第3楽章： 「夏の嵐」嗚呼、彼の心配は現実となってしまった。上空の雷鳴と雹（ひょう）が誇らしげに伸びている穀物を打ち倒した。

協奏曲第3番「秋」

第1楽章： 「小作農のダンスと歌」小作農たちが収穫が無事に終わり大騒ぎ。ブドウ酒が惜しげなく注がれる。彼らは、ほっとして眠りに落ちる。

第2楽章： 「よっぱらいの居眠り」大騒ぎは次第に弱まり、酒はすべての者を無意識のうちに眠りに誘う。

第3楽章： 「狩り」夜明けに、狩猟者が狩猟の準備の為にホルンを携え、犬を従える。獲物は彼らが追跡している間逃げる。やがて傷つき獲物は犬と奮闘して息絶える。

協奏曲第4番「冬」

第1楽章： 寒さの中で身震いしている。足の冷たさを振り解くために歩き回る。辛さから歯が鳴る。

第2楽章： 外は大雨が降っている、中の暖炉で満足そうに休息。ゆっくりしたテンポで平和な時間が流れる。

第3楽章： 私たちはゆっくりと用心深く、つまづいて倒れないようにして氷の上を歩く。しかし突然、滑って氷に叩きつけられた。氷が裂けて割れ、頑丈なドアから出ると外は南風と北風がビュービューと吹いていく。そんな冬であるが、もうすぐ楽しい春がやってくる。

2、ヘンデル オンブラマイフ&私を泣かせてください

- ①、「オンブラマイフ」はオペラ『セルセ』第1幕の中のアリア。イタリア語で「影」の意味。アメリカ出身のソプラノ歌手キャスリーン・バトルによる音源が、実相寺昭雄監督による映像とともに、1986年夏からニッカ・ウィスキーのCMに使用され、日本で大きな反響を巻き起こした印象深い曲です。
- ②、「私を泣かせてください」は、オペラ『リナルド』のなかのアリア。声楽のコンサートでよく歌われる曲です。本田美奈子が日本語歌詞で歌ったものが知られています。

3、パッヘルベルのカノン

花王メリットシャンプー、クボタ農耕、NIKE（ナイキ）、ソニー損保、日経ヴェリタスン等コマーシャルに多く使われるのでメロディーは馴染みのある曲です。卒業式など、「式」のBGMなどに使われることも多い曲です。

4、バッハ (オルガン)

(1) G線上のアリア

この曲は、正確には「管弦楽組曲第3番二長調 BWV1068 第2曲アリア（エール）」という曲です。ヴァイオリンには4つの弦ですが、高い音の出る（細い）弦から順に、E線、A線、D線、G線と呼ばれています。その中の一番太いG線のみで演奏できることから、「G線上のアリア」と呼ばれています。



(2) トッカータとフーガ

バッハのオルガン作品の中でも最も有名な曲の一つです。パイプオルガンの表現力の可能性を追求した名人芸的作品としても知られ、パイプオルガンの荘厳な響きと圧倒的な音の迫力を味わうことができます。